

三才の定義

三才とは天地人を云う。宇宙を構成する三つの要素である。天とは、顛(頭の天辺)なり。至高にして上無し(頭上高く広がる)。地とは、元氣初めて分かれ、軽く清んだ陽は天と為り、重く濁った陰は地と為る、万物の陳列する所なり。人は天地の性の最も貴き者なり(以上、説文による)。

三才によって何が分かるか

まず宇宙に於ける人の地位(三才的自然観人間観)、次いで医学に於ける自然と人生の関係(三才的医学観、疾病観)が分かる。

三才的自然観、人間観

「天に精(エネルギー)有り、地に形(物質)有り、天に八紀八風、卓越季節風有り。地に五里(地形、風土)有り。故に能く万物の父母と為る(素問5)」。精は精白米で、米のエキス。人のエネルギーの本である。天に在つては太陽エネルギーである。これが風雨寒暑(八紀)として地上に降り注いで、山川草木(地形、五里)を生じ、そこに鳥獣虫魚形が発生する。人は虫の一種で裸虫と云う。人が能く天地万物と相、感応するのは、天地が父母として人を生成化育したからである。又、「人は天地

の氣(エネルギー)を以て生じ、四時の(成長收藏の)法(則)を以て(生)成(す)る」。また、「人は地に生まれ、命を天に懸く。天地氣を合す。之を命づけて人と曰う。人能く四時に応ずるは、天地之が父母為ればなり(素問25)」。

三才的医道観

「道は上は天文を知り、中は地理を知り、下は人事を知れば、以て長久なる可く、以て衆庶に教えて疑殆せず、医道の論篇は後世に伝うべく以て宝と為す可し(素問75)」。

形態的天人相応関係

人は天地と相參じ、日月と相參ずる存在である(靈樞79)。靈樞71には26項目に亘る形態的相関事項が挙げられている。しかしこれは形式的、外面的で、内的連関が無く、医学的意味は認め難い。ただし経脈は経水との対応から着想された可能性があり、以下の如き相関が認められる。

自然に於ける水に拠るエネルギー循環。「地氣は上つて雲と為る。天氣は下つて雨と為る。雨は地氣より出で、雲は天氣より出づ(素問5)」。

人に於ける血氣に拠るエネルギー循環。「人が氣を受ける所の者は穀なり。穀の注ぐ所の者は海なり。胃は水穀氣血の海なり。海の雲氣を行る所は天下なり。胃が氣血を出だす所は(経脈なり)。経隧は五藏六府の大絡なり(靈樞60)。経脈十二は、外は十二経水に合し、内は五藏六府に属す。経水は水を受けて之を行る。経脈は血を受けて之を営す。此れ人の天地に參ずる所以なり(靈樞12)」。

生理的天人相応

生体機能の天人相応関係には二つの曲面がある。1、時間的推移、即ち気象の変化に対応する生体リズム。2、空間的順応で即ち風土に対する適応。

1、生体リズム。即ち生体、殊に神経・循環系機能の時間的推移、変動である。これには日周リズム、月周リズム、年周リズム即ち昼夜、朔望、四季に於ける体調の変化がある。2、気象の影響。「天温かく日明るきときは即ち人の気血は渾液として衛氣浮く。故に血は瀉し易く、気は行き易し。天寒く、日陰れるときは即ち人の血は凝泣して衛氣沈む(素問26)」。3、風土の影響は風土病である。

三才的疾病観

素問の病因論は三才によって分類され、五行によって展開される。疾病の分類もこの三才によって行われる。

病因論。「夫れ百病の始めて生ずるや、皆、風雨寒暑(天の變動)、陰陽喜怒(人事の葛藤)、飲食居処(風土の生徳)より生ず(靈枢28)」。

疾病論。病は三才によって三つに分類される。天の病、人の病、地の病である。1、天の病(風の医学)としては、氣象病(寒暑燥湿による病。凍傷、熱射病など)、季節病(春の鼯趾、長夏の洞泄寒中、秋の風癢、冬の痺厥)、感染症(傷寒、中風)がある。2、人事の病としては、時の古今と病や治の古今についての考察(素問13、14)や心身症(素問77、78)の記載がある。3、地の病は風土に特有の病の記載がある(素問12)。

天人对応的診断としては脈診に於ける三部九候論、予後に於ける四時の脈と病人の脈の相応問題などがある。

天人对応的治療としては四時刺など、養生については四氣調神論の記載がある。

結び。三才は1、医学の構成に宇宙論的視点を導入した。2、健康と疾病の問題を自然環境と社会環境の中に包括的に把握した。3、生体リズム、病因論、疾病論の合理的構築に於いて有効性を発揮した。

(平成八年二月例会)

室町時代より江戸初期までの灸技術について

角 谷 貞 雄

室町時代より江戸初期までの医療の一術である灸術について、その用いられた経穴を五行穴・背俞穴・募穴等にわたり解析することで、次の様なことが判明した。

室町時代の半ばに僧月湖は灸技術について、宋・金・元医学を学び、その時代の人間にあった、灸法を確立し、以下のような独特な灸術を施した。

全九集巻七によれば技術的には体幹部正中線近くに、その時間に応じる募穴・俞穴を主に用いて気血を過不足無く、量的にも時間的にも循環させることが健康であるという概念をもとにし、また、施灸点に膿を発生させ免疫を高めるとい